



港区立高松中学校 学校だより<第11号>

平成31年3月5日 校長 鈿持 利行

創立1949年(昭和24年) <高松中生のあたりまえ>推進校 港区高輪1-16-25

生きていることを大切に

校長 鈿持 利行

今年度も、あとわずかで修了式を迎えます。3年生は3月20日で卒業です。今は、一年間あるいは3年生は三年間の締めくくりの時期です。各ご家庭で、1・2年生は、この一年間に頑張ってきたことや成長が見られる点などを、人と比べることなく褒め評価してあげることで、3年生は三年間を振り返り、その努力の積み重ねや成長が、新しい進路の決定につながったことに自信をもつことで、それぞれ次年度が意欲をもってスタートできるよう励ましていただければと思います。

さて、『おはん』『幸福』などの小説や随筆を著した作家の宇野千代さんは、非常に前向きに、努力を惜しまず、仕事を楽しみ、人生を楽しみ、幸福に向かう生き方をしました。なぜ、このような生き方ができたのだろうかと考えた時、母親との関係にあるのではないかと思います。宇野千代さんの実母は、一歳半の時、結核で「この児のことが気にかかっての



う、死んでも死に切れんでよ」という思いで亡くなりました。80歳を超した時、若かった母を思い、“よく私を生んでくれた”と感謝の気持ちで、「湯のように温かいものが、胸の中を流れるのを感じた」と述べています。父は、再婚し、「今日から、これがお前のお母じゃ」と新しい母との出会いがありました。新しい母は、五人の弟妹を生みましたが、千代を長女として大切に育て、千代も「あの母が自分にとっては生母でないと知りながら、そのままの母を愛していたのであった」(「 」内は、宇野千代『生きて行く私』中央公論新社より)と述べています。

皆さんもこの世に生を受け、愛情を受け、育ってきました。家族に育てられ、支えられています。考えてみれば、家族以外のいろいろな人との出会いがあり、応援がありました。生きるということは、命を与えてくださった親や生きることを助けてくださっている方々に感謝し、その恩に報いることです。今、一緒に学ぶ仲間も、かけがいのない存在としてこの世に生を受けました。存在していることに価値があり、それぞれの人生を楽しみ、幸福に向かって生きることができます。そんな仲間ですから、お互いの存在を大切にし、考え方を尊重し、違いを認め合いながら生活してほしいのです。かけがえのない命を大切にし、命を与えてくれた人が悲しむことがないように、力強く生きていくようにしましょう。私も皆さんと同時代に生きていることに感謝し、共に生きることを楽しみに、今後も日々を過ごしていきたいです。

高松中学校 3学期を振り返って

3学期は短い期間に多くの行事が重なっていました。ピンと張りつめた空気の中で行われた席書会。1枚の札を巡って若者が闘志を燃やす百人一首大会、そして1月21日（月）～26日（土）までの一週間は学校公開週間と学習展示週間を実施いたしました。どれも高松中の誇る行事です。展示作品は、今年も力作ぞろいで、高松中のみなさんの芸術性の高さを感じさせてくれました。その他にも、高松中生が活躍した場面がたくさんありますので、その一部をご紹介します。



席書会



百人一首大会



アンサンブルコンテスト



作品展示 1



作品展示 2



東京駅伝



2年校外学習



セーフティ教室



社会科フィールドワーク

【3年生 ラストスパートです】 (①…1校時の略)

- | | |
|---------------------|----------------------|
| 3/6 (水) ⑤ 卒業研究発表会 | 3/13 (水) ① 薬物乱用防止教室 |
| 3/7 (木) ①～④ 救命救急講習会 | 3/14 (木) ⑤⑥ 美化ボランティア |
| ⑤ 認知症サポーター養成講座 | 3/15 (金) ⑥ 映画鑑賞 |
| 3/8 (金) 卒業遠足 (TDS) | 3/16 (土) ②③ 3年生を送る会 |
| 3/11 (月) ⑤⑥ 球技大会 | 3/20 (水) 第68回卒業式 |
| 3/12 (火) ②③ 百人一首大会 | |

3年生も卒業に向けて、みんなで過ごす時間もあとわずかとなりました。保護者のみなさん、中学校生活の残り少ない時間をぜひ生徒と一緒に過ごしませんか。ご来校をお待ちしています。